

# 「挨拶は言葉のスキンシップ」の授業について

## 1 はじめに

表題のタイトルの道徳授業について相談を受けました。道徳では、原則、教科書の読み物資料を活用すること、指導書にはねらいや発問例が掲載されていることから、これを活用すれば、道徳の授業指導案が比較的簡単に決められるのではないかと思いました。以上のことを踏まえ、基本的な授業展開を次のように考えました。

- 導入 極めて簡単にする。「今日は〇〇について考えます。」程度とする。
- 展開前半 読み物資料は教師による範読  
発問は、資料の内容を理解するための発問、資料から考える道徳的価値について考える発問の2つとする。いずれも、指導書に掲載されている発問例を参考にする。
- 展開後半 発問は、生活の振り返りから道徳的価値について考える発問1つとする。
- まとめ 振り返りをする。「今日、学習したことで大切だと思うことを書きましょう。」

以上の考えのもと、「挨拶は言葉のスキンシップ」の指導案を考えてみました。

## 2 授業展開

- (1) 教材名 挨拶は言葉のスキンシップ
- (2) 主題名 心を形に
- (3) 内容項目 B-(7) 礼儀
- (4) ねらい 心と形が一つになった礼儀や作法の意義に気づき、相手を尊重する心を込めて、形に表していこうとする態度を養う。

1～4は指導書より

### (5) 指導過程

|                 | 学習活動   | 指導上の留意点   |
|-----------------|--|---|
| 導入<br>5分        | 発問 今日誰に挨拶しましたか。<br>今日は、「挨拶」について考えます。   | 問いかけだけを行う。  |
| 展開<br>前半<br>25分 | ○資料を読む。<br><br>発問 p16 ㉑ 「私」が職場体験学習に行きたくなかった一番の理由は何だと思いますか。<br>なぜ、そう思ったか、理由も述べましょう。<br><br>行きたくない理由<br>人と話すのが苦手<br>朝早く起きなければならない<br>5日間連続<br>○ペアで交流する。<br>○全体交流をする。 | 教師による範読<br><br>○行きたくない理由が3つ上げられている。一番の理由は何かと問うことで、生徒は、もう一度、資料を読もうとするだろう。<br>※内容の理解を深める発問<br>※取組みやすい発問 |

|                                    |   |   |
|------------------------------------|---|---|
|                                    | <p>発問 p18 l 17～l 20 店長さんが「私」たち二人に伝えたかったのは、どんな思いでしょうか。</p> <p>○道徳ノートの“考えてみよう”に自分の考えを書く。</p> <p>○4人班で交流する。<br/>全員が順番に道徳ノートに書いたことを読む。</p> <p>○全体で交流する。<br/>2～3名 挙手による指名<br/>2～3名 教師による指名</p> | <p>○p18 l 17～l 20を読み上げた後、発問する。</p> <p>※資料から道徳的価値について考える発問</p> <p>○机間指導を行う。<br/>全体交流で発言させたい内容を探す。</p> <p>○生徒の発言のあと、同じような意見は連続して発言するよう促す。<br/>「同じように考えた人はいますか？」</p> |
| <p>展開<br/>後<br/>半<br/>15<br/>分</p> | <p>発問 心のこもった挨拶をした経験や、反対に、心のこもっていない挨拶をした経験を振り返りましょう</p> <p>○道徳ノートの“自分に+1”に書く。</p> <p>○いつ、どこで、どんな挨拶だったか、エピソードを書く。</p> <p>○その時の思いや、今、どう思っているのかを書く。</p> <p>○全体で交流する。<br/>2～3名 挙手による指名</p>     | <p>○心のこもった挨拶でも、そうでない挨拶でも、どちらか一つについて書くことを伝える。</p> <p>○机間指導を行い、全体交流で発言させたい内容を探す。</p> <p>○言いたくない生徒もいるだろうから、挙手による発言とする。</p> <p>○机間指導で得た発言させたい生徒に、発言を促す。(無理強いしない)</p>  |
| <p>終<br/>末<br/>5<br/>分</p>         | <p>○振り返りを行う。</p> <p>振り返りシートに、教材タイトル名と「今日、学習したことで大切だなと思うこと」を書く。</p>  |   |

### 3 おわりに

ぜひ、実践していただき、成果と課題を共有したいものです。